

一般会計など全決算を“認定”

本定例会では、第1および第2決算審査特別委員会を設置し、9月8日から9日まで各委員会を開催し、令和2年度の一般会計1件ならびに特別会計5件、事業会計2件について審査を行いました。

プレミアム商品券の効果

問 プレミアム商品券発行事業の効果について伺う。

答 3億8,000万円の消費効果により、地域に対する一定の経済効果はあったと認識している。

小学生の通院費助成

問 非課税世帯の小学生の通院費について助成を実施しているが、成果や課題等について伺う。

答 コロナの影響で、医療需要がどれほどあるかを正しく把握できなかったところもある。ただ、見込んでいた対象者のうち約半数の方は申請をされたので、引き続き制度の周知に努めて、次年度以降も必要な世帯に対する助成を実施していく考えである。

道路の維持管理

問 道路の維持管理について、市内の見回りや道路の凹凸補修等はどのように行っているのか。

答 市の直営では随時、受託業者は地区ごとに毎日パトロールを行っている。道路の補修については、危険性の高い大きな穴等についてはできる限り速やかに修繕を行い、軽微な穴等については、業務発注している舗装業者により毎月穴埋め作業を行っている。

※「決算委員会」「一般会計」「特別会計・事業会計」は10ページの「用語を理解して議会をもっと身近に！」を参照

街路樹の管理

問 管理を含む街路樹の将来的な課題について伺う。

答 市内の街路樹の中には40年を超える老木があり、危険な樹木については随時伐採をしている。令和2年に実施した、緑の基本計画の策定に関する市民アンケートにおいては街路樹について必要、不必要と意見が分かれたが、街路樹がもたらすメリットも多くあることから、今後は重点路線については、老木による伐採後には補植を行うこととし、他の路線については伐採後の補植は行わない考えである。

市立病院看護職員の時間外労働

問 現状の看護師の人数と時間外勤務の時間について伺う。

答 今年4月1日現在、正職員は202名で、時間外勤務の実績は、看護師1人あたり月平均で令和元年度は16.2時間、令和2年度は13.8時間となっている。



下水道使用料の見直し

問 令和元年10月に行われた下水道使用料の見直しによる影響について伺う。

答 コロナの影響がなかった令和元年12月と令和2年1月の検針水量を基に旧料金体系と新料金体系で検証したところ、0.31%の減、月額にして約18万円となったことから、見直しによる使用料や収支における影響はほぼなかったと認識している。

問 上下水道の検針回数の減による効果と影響について伺う。

答 効果として人件費の削減がある。また、現時点で調定収入等の事務における不足は生じていないことから、マイナスの影響というのではないと認識している。

高齢者福祉

問 コロナの影響を受けて中止した高齢者向けの事業について伺う。

答 高齢者の集いの場、サロン事業などを中止した。この間いきいき百歳体操については、地域FMでの短縮版の放送やDVDの貸出しにより自宅での取り組みを支援したほか、訪問や電話などで健康状態を確認し、体力低下が懸念された方には、介護保険サービス等を案内するなどを行った。

問 要介護認定件数が令和元年度と令和2年度を比較すると、約300件減となっている要因について伺う。

答 平成30年から更新の場合の介護の有効期限が36か月に延びたことにより、更新が大幅に減少しているが、新規や区分変更は昨年より若干増加している。

特定検診

問 特定健診の受診率と主な要因について伺う。

答 令和2年度の特定健診の目標受診率は、44パーセントとなっているが、今年10月頃に確定する実績としては、約37パーセント前後になると見込んでいる。下回った主な要因は、コロナによる受診控え、集団健診や市内医療機関の人数制限、健診実施の見合せなどが影響しているものと考ええる。



がん検診

問 がん検診にかかる予算額と実績の乖離の要因を伺う。

答 主に集団健診における特定健診と併せての実施となっているが、緊急事態宣言等を踏まえて集団健診の定員数の制限があったことから、当初見込みよりも減少した。

健康なまちづくり推進事業

問 健康なまちづくり推進事業におけるコロナによる影響について伺う。

答 コロナの影響により、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がんのこれら5つの検診について、集団健診での人数制限等により減少した。

